

地元イチオシの特産品・名産品 を紹介します！



八溝山周辺地域
定住自立圏



茨城県大子町

奥久慈しゃも

地鶏の最高傑作との呼び声が高い奥久慈しゃもは、日本を代表する地鶏です。2018年、国の地理的表示（GI）保護制度に地鶏として初めて登録されました。

奥久慈の自然の中で十分に運動させ、丁寧かつ野性的に育てられたその肉質は低脂肪でしっかりとした歯ごたえがあり、コクのある豊かな味わいが魅力です。

問（一社）大子町特産品流通公社
TEL 0295(76)8220



福島県塙町

こんにゃく

塙町では江戸時代からこんにゃくを食べ、現在に至るまで地域の食文化として根付いています。近年は「こんにゃく」の名を冠したさまざまな商品が開発されていて、その中でも程よい甘さと独特な食感の「こんにゃく餅」と、素材の良さをそのまま生かした「刺身こんにゃく」が人気です。お越しの際はぜひご賞味ください。

問 まち振興課 TEL 0247(43)2112



こんにゃく餅

【店舗情報】陣野菓子店
塙町大字塙字栄町 58
TEL 0247(43)1234



刺身こんにゃく

【店舗情報】道の駅はなわ
塙町大字塙字桜木町
388-1
TEL 0247(44)0123



福島県矢祭町

とちおとめ

矢祭町は福島県内でもトップクラスのいちごの産地として知られており、町内で栽培されているいちごは、粒が大きくて美しい色合いの「とちおとめ」が主流です。特に、寒さが厳しい1月～2月は甘味がしっかりと蓄えられるため、最もおいしい時期を迎えます。

問 事業課産業グループ TEL 0247(46)3131



福島県棚倉町

菊芋チップス

菊芋チップスは、天然のインスリンとして注目されている菊芋を丁寧に乾燥させ、食べやすくチップスにしたもので、食べる健康食として人気があります。手軽に食べることもでき、お茶や漬物、炒め物にするのもおすすめです。

町では、菊芋チップスの他にも、えごまドレッシングや棚倉美泥石けんなど、14品が「棚倉町ブランド」として認証されています。

問 棚倉町農作物・物産品ブランド化推進協議会
TEL 0247(33)2113



八溝山周辺地域定住自立圏とは？

栃木県大田原市を中心に、那須塩原市、那須町、那珂川町、棚倉町、矢祭町、塙町、大子町の2市6町で協定を結び、連携・協力して地域活性化などに取り組む組織です。

掲載した特産品・名産品以外にも市、町がおすすめする商品がたくさんあります。この機会に、ぜひお気に入りを見つけてください！



那須塩原市

那須塩原ブランド

地域産業の活性化のため、「那須塩原らしさ」や「独自性」を持った特産品を「那須塩原ブランド」に認定しています。自然の恵みの中で育った塩原高原野菜や温泉水を使ったお酒、生乳生産本州一を誇る那須塩原市自慢の乳製品など市の魅力が詰まった商品が本ブランドに選定され、注目度もアップしています。

問 農務畜産課 TEL 0287(62)7147



那須町

那須ブランド認定品

那須ブランド認定品には、生産者・製造者が心をこめて作った米や野菜、肉、乳製品、お菓子などがあり、現在、52種が認定されています。道の駅那須高原友愛の森内「ふるさと物産センター」では、那須ブランド認定品のほか那須町の特産品など、那須を代表する魅力あふれる商品が揃っています。

問 那須ブランド推進委員会事務局(那須町商会)
TEL 0287(72)0231



大田原市

大田原ブランド

本市では、地域活性化・地域ブランドの確立のため、優れた特産品を「大田原ブランド」として認定しています。

現在、与一和牛や大田原の地酒の他、栃木三鷹(唐辛子)や鮎を使用した料理など16品目を認定し、市ホームページで紹介しています。

ぜひご賞味ください。

問 商工観光課 本 4階 TEL (23)3145



那珂川町

那珂川ゆば丼

町内のゆば工場と飲食店15店舗が協力し、11月6日、町の新たな名物「那珂川ゆば丼」が誕生しました！栃木県産の大豆を100%使用した良質な豆乳から作られた濃厚で滑らかな食感のゆばを、和食・洋食・中華にと、各店舗がそれぞれの個性を活かしてゆば丼に仕立てました。「ゆば丼」と書かれたオレンジ色ののぼり旗が目印です。

問 産業振興課 TEL 0287(92)1116



市史編さんだより vol.4

大田原市には、湧水地や中小の河川が多くあります。今回紹介するのは、このような水辺に生育する希少な種子植物です。

まずは、エンコウソウです。黄色い花とつややかな葉が印象的です。花びらに見えるのは萼片で、花弁はありません。漢字で書くと「猿喉草」で、地面をはう茎を手長猿の手に見立てたものだそうです。写真でも右から褐色の茎が伸びて緑の葉と黄色い花を付けている様子が分かります。大田原市では、4月下旬から5月上旬にかけて花を咲かせます。『レッドデータブックとちぎ2018』(栃木県)によると、絶滅危惧Ⅱ類に該当します。よく似た花にリュウキンカがありますが、こちらは茎が直立して花を付けます。

次は、ミクリ属の仲間です。ミクリを漢字で書くと「実栗」で、実が栗のイガに似ていることから付けられたようです。日本には7種類が分布しており、大田原市には、ミクリ、ヒメミクリ、ナガエミクリが生育しています。ミクリの仲間は、花や実の付き方や種子の形、植物体の大きさで分類しますが、同定の難しい個体もあるので、広くミクリの仲間と見ていただければと思います。前述のレッドデータブックでは、絶滅危惧Ⅱ類や準絶滅危惧種とされます。

最後は、カワヂシャ(花はほぼ白色)です。数十年前はあちこちで見られたようですが、現在は外来種のおオカワヂシャ(花は淡い青色)が繁茂し、ほとんど見ることはできません。今回の調査でも確実な個体を見つけることができませんでした。カワヂシャに関する情報をお持ちの方はぜひお知らせください。(自然部会 中川幸夫)

自然部会調査速報②
～水辺の希少種～

エンコウソウ



ヒメミクリ

カワヂシャ
(神山隆之氏提供)

問 文化振興課 本 4階
TEL (23) 3135

おおたわら令和の名木選 ⑩

問 農林整備課 本 4階 TEL (23) 8813

今月で紹介する樹木は、大田原神社の「夫婦杉」(山の手)、雲巖寺山門下のスギ(雲岩寺)、温泉神社のスギ(中野内)の3箇所です。スギは市内によく見られる樹木ですが、名木に推挙されているものは、どれも大きくまだまだ樹勢も旺盛で存在感があります。

大田原神社の「夫婦杉」は、その名のとおり2本のスギが仲睦まじく参拝者を迎えています。約300年の時を超え引き継がれた「夫婦杉」は、いまなおひっそりと市内を見守っています。

雲巖寺、温泉神社のスギは、約500年前に植えられた巨木です。戦国から江戸時代、明治維新、世界大戦など幾多の困難を乗り越え、今なお衰えを知らず、その荘厳な姿を現代の私たちに見せています。これら大木の生命力は計り知れず、コロナ禍の私たちにも力を与えてくれるのではないのでしょうか。

なお、本庁舎1階ロビーに雲巖寺で倒木の恐れがあって、惜しまれつつ伐採された「千丈の瀧上老杉」の年輪盤が展示されています。年輪を確認するとその樹齢を確認できますので、ご来庁の際にはぜひご覧ください。



大田原神社の「夫婦杉」(山の手)



雲巖寺山門下のスギ(雲岩寺)



温泉神社のスギ(中野内)

